

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

90



「ライフドアすわ」は諏訪市の委託により諏訪市医師会、小松郁俊先生（初代センター長）、宮坂圭一先生（2代センター長）の手により諏訪赤十字病院、諏訪市社会福祉協議会と共同して設立しました。正式名称「諏訪市地域医療・介護連携推進センター」。今年で9年目になります。多くの方の力を得て活動してきました。この度、先代小島洋二先生のおを受け第4代センター長に就任しました。よろしく願います。この機会にあらためてその活動内容、目指すところをお話しさせていただきます。

とうとう令和6年の出生数は70万人を切り、終戦直後のピークに4分の1です。その間に寿命は25才延びました（昭和23年→令和元年・男56→81才・女59→87才）。日本の少子高齢化の早さは世界に類例がありません。

どうすれば良いか。それで平成12年に「介護保険制度」が始まりました。ケアマネジャーさんがいろいろの介護サービスを調整し、

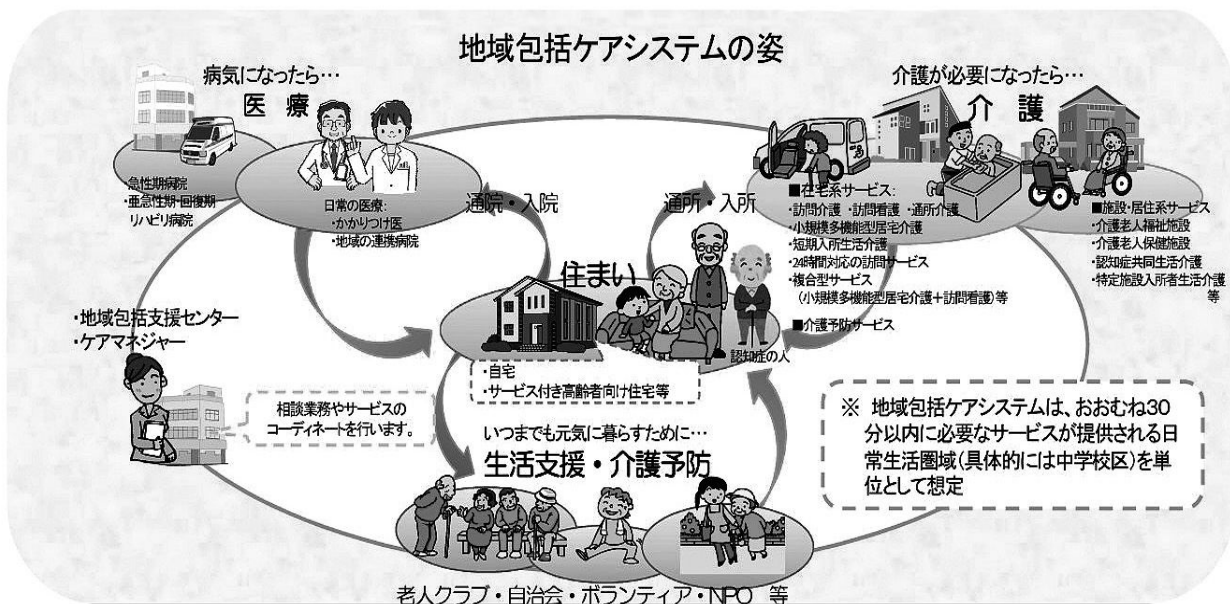
介護施設が整備され、家族の負担を減らし「高齢者を社会制度で支える」ようになりました。また、あらゆる職種・住民が関わって「地域包括」高齢者を地域で支える」という概念が生まれ平成17年には各自治体に「地域包括支援センター」が設立されあらゆる相談ができるようになりました。そうしているうちに高齢者の認知症やフレイル（筋力低下）が社会問題となり、介護など「生活面」に加え「医療面」も組み合わせる必要が出てきました。

「高齢者を支える」ということがどんどん拡張し、住民、関係者、専門職、事業所、病院、行政など、そういう全部を束ねる専門チームが必要となりました。それが「介

護

諏訪市地域医療・介護連携推進センター長（諏訪市医師会長）

たか ばやし やす き
高林 康樹



ライフドアすわ その役割と目指すこと

護と医療の連携推進」であり、平成26年に各市町村が取り組むこととされ、そうして諏訪市に平成29

年に「ライフドアすわ」が誕生し

ました。県内で一番手。現在専従職員5名で奮闘しています。

ケアマネさんは大忙しです。ヘルパーさんを派遣し入浴サービスを手配し主治医に相談をし。あの先生へはどうやって連絡取れば良いの？寝たきりの高齢者も看護師さんやリハビリ師さんが家での日常をみてくれば動けるようになったりしますが、そんなことも全部ケアマネさんが調整します。「ライフドアすわ」はそういうケアマネさんの疑問に答え活動を支えて、介護現場の多職種をつないでいきます。

地域と言えば昔から一番頼りになるの

が「社会福祉協議会」。住民の生活の具体的なあれこれに密着して入っています。行政も地域包括支援センターで住民のあらゆる相談を受け付けていて、「地域ケア会議」で住民の生活を柔軟に機敏に支えています。「ライフドアすわ」は社会福祉協議会や地域ケア会議にも関わり他との橋渡しをしています。

その他、市民講演会やスタッフ教育セミナー、医療機関ガイドマップ作成、医師との連携マニュアル作り、出前講座、患者や家族の交流会（サロン、カフェ）などもしています。

高齢者が最期をどう迎えたいかをゆつくり大事な人と相談するアドバンス・ケア・プランニング（ACP、諏訪市版リビングウィル）も策定しその普及活動も行っています。

「ライフドアすわ」の活動は多岐にわたります。「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けたい」行政が目指すこのイメージ、その実現のため今後

も尽力していきます。

次回は8月10日掲載予定